

『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木俊貴著 小学館



緑地ではツツピー、ツツピーというシジュウカラの聲が響いているのでしょうか？この本はシジュウカラと18年以上も付き合ってきた方が書いたものです。「ダーウィンが来た」で何度か放映されたので、ご存じの方もいるかもしれません。

シジュウカラが鳴く声は200パターン以上あり、2語文で話したりしているそうです。2語文とは、2歳ころ話す、「ワンワン来た」のような文です。シジュウカラの場合、「ピーツピ、チチチ」と鳴くと、「警戒して・集まれ」という意味で、これを聞いたシジュウカラがあちこちから集まり、キョロキョロと頭を左右に振って警戒すべきものを探すそうです。

私もコゲラがつがい巣作りをしているのを観察したことがあります。1羽が帰ってきて、もう1羽と巣作りを交代するときに、「チッ」と鳴き、もう1羽も「チッ」と応えて、飛んで行きました。まるで「頼んだよ」、「オーケー」という感じでした。

著者の鈴木さんはご自分の研究の積み重ねから、動物言語学という学問領域を打ち立てました。彼は動物は言語をもち、我々がそれを理解できれば、毎日の世界がもっと豊かで素晴らしいものになるはずだと言っています。

私たちも身近な動物と対話してみたいですね。

(齋藤好子)